

新成人 誓いのことば



私は、幼いころから野球に取り組んできました。たくさんの思い出の中で、最も心に残っているのが、高校最後の夏の選手権大会です。大会の一カ月ほど前、私は右手中指を骨折し、つかみかけていたレギュラーの座を失うことになり、とても絶望しました。しかしそんな中、仲間が必死に声をかけてくれたおかげで立ち直ることができ、選手権大会では、ともに練習してきた仲間たちとグラウンドをかけることができました。もしあの時、あの仲間がいなかったら、最後までグラウンドで闘いぬくことは到底できなかったでしょう。大きな悔いだけが、心の中に残っていたことと思います。私は、この経験を通して、仲間のやさしさや大切さを改めて感じることができました。苦しい時に自分を支えてくれた仲間たちに、この場を借りて、心から「ありがとう」と伝えたいと思います。

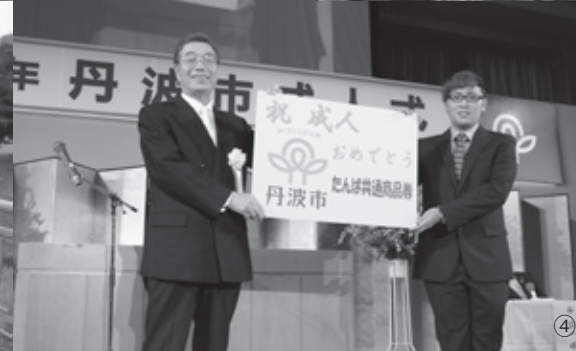
私には、「世界中の飢餓で苦しむ人を、一人でも多く救いたい」という夢があります。その夢に向かって、大学の農学部に進学し、遺伝子組み換え技術や土壌学などについて日夜学習しています。現在、世界の人口は年々増加していますが、食料の生産がこれに追いついておらず、飢餓人口は増加し続けています。しかし、厳しい環境下でも育つ植物があれば、こうした状況を少しずつ変えていくことができると思います。ぜひ、そのような植物を生産して、飢餓に苦しむ人たちを救い、よりよい社会をつくっていきたいと考えています。

時には厳しく、時には温かく見守りながら、これまで私たちを大切に育ててくださった両親や地域の皆様方には、人生のよき先輩として、今後ともご指導、ご助言いただきますようお願い申し上げます。誓いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。



①晴れ着姿でさっそうと会場を訪れる新成人
②真剣な表情で式典を見つめるようす
③「二十歳の今」と題して4人が夢や希望を発表
④辻市長から新成人へのお祝いのメッセージ
⑤友人たちと記念撮影
⑥新成人が丹波市公式フェイスブックをPR



仲間たちと晴れ着姿で記念撮影(写真右、上)



天 候に恵まれた1月13日(日)、華やかな振袖やスーツ、紋付き袴に身を包み、新成人が続々と柏原住民センターに集合しました。久しぶりに顔を合わせた友人同士の会話が弾み、旧交を温め合う姿があちらこちらで見られました。

午 後1時30分、大きくなったわが子の姿を一目見ようと集まった父母が見守るなか、丹波市成人式がスタート。中学校時代の懐かしい写真がスクリーンに流れると、会場には、新成人の笑い声や歓声が響き渡りました。また、市内の若者グループ「grain e (グライネ)」のメンバーであり、シンガーソングライターのながわひろろさんが、新成人にお祝いの歌をプレゼント

辻 重五郎市長が「ふるさと丹波市の創造に共に汗を流してくれる若者が一人でも多く現れてくれることを期待します。たとえ、このまちを離れてもふるさとを想い、何らかの関わりをもつてほしい」と祝いのメッセージを送りました。

終 わりに、新成人代表の中道貴也さんが、力強い誓いの言葉を述べ、平成25年丹波市成人式は幕を閉じました。

式 典は、終始和やかな雰囲気の中、決意と自覚を胸に秘め、新たなステージへと旅立ちました。

第1部

新成人おめでとう！

平成 25 年丹波市成人式

晴れの門出を迎えた新成人818人(式出席者692人)が、大人の仲間入りを果たしました。

大人としての第一歩を踏み出した彼ら。新たな決意と自覚を胸に、これから818通りの人生を歩んでいきます。

新成人の晴れの日をリポートするとともに、彼らの力強いメッセージをご紹介します。





あなたの夢

新成人インタビュー★

教えてください。





近藤 壮（こんどうたけし）
春日地域。柏原高校卒。
現在、春日部小学校に勤務。2年目。
学校事務職員として、教職員の給与の支払い、
教材の購入や施設の維持管理など、学校運営
全般の事務に携わる。

長年通った学校を職場に

私の夢、それは、学校の先生になることでした。しかし、進学には多くの学費がかかること、また、就職難が続いていたこともあり、高校卒業と同時に就職しようと思いました。そして、私に多くのことを教えてくれた学校のために働きたいと思うようになり、小学校の事務職員になることを決めました。

社会の一員としての自覚

高校卒業と同時にじまった社会人生活。高校生のころには分からなかった「社会人としての責任の重さ」に気づかれました。例えば、公務員として働いている以上、いただいている給料も、学校で使っているお金もすべてが税金です。働きはじめて間もなくその責任の重さを実感しました。

さらに、「人と人とのつながり」の大切さも学びました。仕事で悩みを抱えた時、一人では解決できないこともあります。私の場合、小学6年生の時の恩師が同じ職場におり、仕事の悩みに親身になつて相談に乗ってもらうなど、大きな支えになってくれました。

自立への挑戦

Kondou *Takeshi*
近藤 壮

縁の下の力持ちとして子どもたちの成長を支えたい。



春日部小学校では、朝に読書の時間があって、職種に関係なく生徒に読み聞かせをします。事務職員が生徒と交流する機会は意外に多くあるんですよ。
学校では「近藤先生」って呼ばれています。ちょっと照れますね・・・。
小学校の6年間で子どもたちは大きく成長します。事務職員として彼らのために何ができるのかを考えながら仕事に励みたいです。

支える大人に

Iwamoto *Kana*
岩本 佳奈

将来は丹波市で看護師として働きたい。

仕事を通して人の支えに

私は今、看護師になるために看護学校に通っています。きっかけは、仕事を通じて人の支えになれる看護師をめざそうと、大学で看護学部を専攻していた姉の存在です。看護学校では、人体の仕組みや病気がなぜ起こるのかなど、患者さんと向き合うための基礎知識を学びます。そうして蓄えた知識をもとに、病院実習で患者さんと接する機会を得ます。



岩本佳奈（いわもとかな）
柏原地域。氷上高校卒。
大阪医療看護専門学校看護学部2年生。
授業と病院実習で忙しい毎日を送る。
趣味は散歩。好きな食べ物は梨。

実習を通して学んだこと

看護学生は、医療的な処置はできませんが、患者さんの日々の生活を支えることやコミュニケーションをとることはできます。患者さんから「ありがとう」という言葉をもらうと、人は傍にいてだけでも人の支えになれるんだなと実感します。

看護師は、命と向き合う仕事です。患者さんの命を支えるだけでなく、その人らしい生き方を支えるために、学校で学んだ基礎知識を大切にし、なぜこの患者さんにはこの治療が必要なのかなど、根拠に基づいた看護が行える人材になりたいです。

私が抱く夢

卒業後は、大好きな丹波市、大切な家族が待つ丹波市に帰り、看護師として働きたいと考えています。地域の医療を支える一人として、多くの人の役に立つことが私の大きな夢です。

第2部

ハタチのまなざし

ambition of their twentieth year

成人式を迎え、大人としてのスタートラインに立った新成人たち。

その第一歩を力強く踏み出そうとする4人のハタチがそれぞれの決意を語ります。

今年の成人式では、市内の有志の若者で構成されるグループ「graine(グライネ)」の企画・協力により、4人の新成人がそれぞれの夢や希望を発表。その内容を紹介します。なお、紙面の都合上、一部内容を省略等しています。

信頼される事務職員に

そんな私の今後の目標。それは、みんなから信頼され、頼られる事務職員になることです。そのためには、子どもたちが安心して学校生活を送られる環境づくり、先生たちが教育に専念できる職場づくりを担う一人として仕事に励みます。

就職して2年、まだまだ職場の先輩などに助けてもらいながらの毎日です。しかし、この4月には後輩が入ってくるかもしれません。自分がみんなに助けてもらった分、後輩を助けていけるように、さらに、頑張ります。

育ててくれた両親へ

私は地元で就職したため、現在も実家暮らしです。家に帰ると当たり前のようにごはんが出てきて、温かいお風呂もあります。そんな両親にはまだ何もしてあげられていません。まずは、今の職場で一生懸命働くことで安心させたいです。そして、家に帰ると「お帰り」と温かく迎えてくれることに感謝の気持ちを持って伝えることを忘れず、両親のもとで少しずつ恩返しをしていきたいです。



寺内みなみ（てらうちみなみ）
山南地域。柏原高校卒。
湊川短期大学人間生活学科2年生。今春卒業予定
で、現在、卒業研究で大忙しの毎日。
趣味は料理。好きな言葉は「ありがとう」。

優しい大人に

現在、大学で、子どもの身体・こころの健康などについて学んでいます。大学での授業を通して、食物アレルギーをもつ子どもたちが増加傾向にあるのに、それについての正しい知識や対応方法を理解している人が少ないことを知りました。食物アレルギーは、周囲の理解や配慮が不可欠です。私は、少しでもこの状況を改善できればと「食物アレルギーをもつ子どもへの対応」を卒業研究のテーマにしました。

私のこれからの夢、それは、これまで勉強してきたことを生かして、子どもの健やかな成長に関わる仕事に携わり、笑顔いっぱい社会づくりに貢献すること、そして、優しく、芯の強い人間になることです。そのためには、だれに対しても広い心で接すること、自分の意思をしっかりとつこと、心を掛けて日々の生活を送りたいです。

愛のある大人に

Teruchi Minami
寺内 みなみ

笑顔があふれるまちづくりに貢献。



お客様に素敵なひとときを過ごしてもらいたいとがんばっています。左からスタッフの美香さん、私、鴻谷オーナーシェフ。職場の雰囲気はとてもよく、働きやすい環境です。

「過去の自分」から「未来の自分へ」

Fujiwara Mitunari
藤原 光成

若者の力で地域を元気に。



藤原光成（ふじわらみつなり）
氷上地域。京都共栄学園卒。
現在、鹿肉レストラン「無鹿」で勤務するかたわら、慶應義塾大学通信教育課程法学部で政治学を学ぶ。

たどり着いた夢のかたち

私は、中学、高校と何度かつらい経験をしました。学校に行けない日々が続く、勉強も遅れ、孤独を感じる毎日でした。周りのみんなと違う自分を責めることもありました。

そんなある日、何気なく本を読んでいると、「自分の未来は自分で創ろう。勇気を奮い立たせよう。そして、何度もチャレンジしよう」というフレーズが目に見え込んできました。その瞬間、はっとしたと同時に、人を信じてみようと同時に、前に進めていない自分がいることに気づきました。そして、少しずつ過去に起きた苦しかったことを見つめ直し、もう一度自助努力の精神でがんばってみよう、自分の道を切り開く勇気をもとう、そして、自分を信じ、人を信じてみようと思えるようになりました。

私の夢は、法学部で政治学をしっかりと学び、社会の仕組みを勉強し、それを生かせる仕事を

に就くことです。私と同じように悩み、苦しんでいる子どもたちに希望を与え、「正しさとは何か」を常に考え、人のために働ける大人になれるように、自分を律し、勇気をもって努力していきたいと思っています。



同世代が集まって、これからのまちづくりについて話し合ったりしています

ふるさとへの思い

私は、20年間丹波市で育ち、たくさんの経験を積ませてもらいました。この土地から離れていく人たちもいるかもしれませんが、それぞれの立場から丹波市に恩返しすることを忘れてはいけません。私たち若者が丹波のために考え、未来を創ろうとすることが、私たちの一番の恩返しになると思います。

出会いと別れを糧に

私は、人との出会いと別れを大切にしたいと考えています。新たな友人との出会いや大切な家族との別れなど、多くの出会いと別れを繰り返していくなかで、喜びや楽しみを感じ、時には悩み苦しむことで大きくなったんだと思います。これまでを振り返ると、自分とは違った考えや価値観をもつ人たちと出会うことも、自分がないものを得たり、自分を見つめ直したりで

きる価値あるものでした。私は、これまでのつながりを大切にすることはもちろん、これから先の人生での出会いもかけがえないものになりたいです。

最後に、生まれてはじめて出会ったお父さん、お母さんへ。私がこの20年間幸せに過ごしてこられたのも二人のおかげです。これからは、二人からもらった皆さんの愛情を、少しずつでもみんなに注いでいけるような人になりたいです。

たくさんの出会いに感謝します
家族やみんなに心からありがとう！

